

金堂平成大修理記念

唐招提寺展—国宝鑑真和上像と盧舎那仏—

開催のお知らせ

唐招提寺は、日本に正式の戒律を伝えるため、12年にわたる様々な困難の末に来朝した中国の高僧・鑑真和上により創建された律宗の総本山です。長い艱難辛苦の末、目が不自由になりながらも不屈の精神で来朝した鑑真和上の生き方は、時代を超えて多くの人々を感動させてきました。

「金堂平成大修理記念 唐招提寺展—国宝鑑真和上像と盧舎那仏—」は、唐招提寺金堂の平成大修理を記念して、来る2005年1月12日から3月6日まで、東京国立博物館、唐招提寺、TBS、日本経済新聞社の主催で開催されます。また本展はTBSが創立50周年を記念してスタートした「唐招提寺2010プロジェクト」の頂点ともいふべき展覧会です。

本展は天平時代を代表する建築として名高い同寺金堂と御影堂の堂内再現を二大コンセプトとしています。金堂再現では、唐招提寺の本尊で、本展が寺外初公開となる国宝・盧舎那仏坐像を中心に梵天・帝釈天像と四天王立像(いずれも国宝)を配し、天平の造形空間を実感していただきます。一方、御影堂再現では肖像彫刻の名作・鑑真和上坐像(国宝)と東山魁夷画伯の障壁画をあわせてご覧いただきます。鑑真和上の崇高な精神を今に伝える唐招提寺の名宝が、無言の中にも現代人に語りかける様々なメッセージを、静かに受けとめる機会になればと思います。

是非、この展覧会の趣旨をおくみとりいただき、貴媒体にてご紹介いただきますようお願い申し上げます。

本展覧会に関するお問い合わせ・写真借用申込先：

■本展覧会に関するお問い合わせ・写真借用申込先：

〒107-0042 東京都港区南青山2-24-15 青山タワービル11F

(株)コスモ・コミュニケーションズ TEL.03-3405-8182 FAX.03-3405-9730

担当：遠田 容子 toda@comnet.co.jp 荒瀬 舞 arase@comnet.co.jp

■唐招提寺2010プロジェクトに関するお問い合わせ先：

TBSテレビ事業本部事業局文化事業部 新田・佐藤

〒107-8006 東京都港区赤坂5-3-6 TBS内 TEL.03-5571-3096 FAX.03-3505-1756

担当：新田 浩子 佐藤 麻理子

開催概要

展覧会名	金堂平成大修理記念 唐招提寺展—国宝鑑真和上像と盧舎那仏—
会期	2005 年 1 月 12 日（水）～ 3 月 6 日（日） 47 日間
会場	東京国立博物館平成館（上野公園） 〒110-8712 東京都台東区上野公園 13-9
開館時間	午前 9 時 30 分から午後 5 時（入館は閉館の 30 分前まで）
休館日	月曜日
主 催	東京国立博物館、唐招提寺、TBS、日本経済新聞社
後 援	文化庁、中国大使館、奈良県、TBS ラジオ
特別協賛	総合警備保障株式会社、トヨタ自動車株式会社、 株式会社三井住友銀行、三井不動産株式会社
協 力	奈良国立博物館、日本通運、凸版印刷、JR 東日本、王子特殊紙、 中越パルプ工業

観覧料（税込）

観覧料	当日	前売	団体
一 般	1,400 円	1,300 円	1,200 円
大学・高校・専門学校生	1,000 円	900 円	800 円
中学生以下	無料	無料	無料

団体は 20 名様以上。

障害者とその介護者 1 名は無料。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。
観覧券は、JR 東日本みどりの窓口、チケットぴあなど主要プレイガイドにて発売中。

一般お問い合わせ	唐招提寺ダイヤル 0570-060-060
ホームページ	http://www.tbs.co.jp/p-guide/daiji/top/
携帯サイト	http://www.tbs.co.jp/mobile/

平成金堂大修理

「天平の薨」の呼び名で親しまれている、唐招提寺金堂（国宝）は、鎌倉、江戸、明治時代の過去4回の大修理を経て、100年ぶりに『唐招提寺金堂平成大修理』が行われています。

1995年の大震災をきっかけにその建物全体の現状調査が実施され、直ちに修理を施す必要があるということが判明しました。

1998年には2年間に及ぶ建物調査が実施され、文化庁主導のもと2000年より10年間に及ぶ大修理を実施、TBSは創立50周年を記念しこれを支援するプロジェクトをスタートさせました。

今回の保存修理事業は国宝唐招提寺金堂を未来に永く残し伝えるために行うものです。南大門をくぐってすぐ眼前に迫るどっしりとした大屋根は総重量400tもあり、内部ではそれを支えるためのいろいろな工夫がなされています。しかしその重みで柱が内側に倒れこみ、木組の変形やズレ、また軒先の垂下が生じて非常に不安定な状態になっており、現在の状況下で台風や地震など外部から大きな力が加わった場合、倒壊や破損などの被害が予想されます。1998年、唐招提寺は世界遺産に登録されましたが、この貴重な文化財を永く後世に伝えるために、金堂の現状を調査し、構造を分析して解体補強することが今回の事業の目的です。

■唐招提寺金堂 平成大修理の事業計画

1998年4月	金堂修理の為の調査事業着手
10月	国宝唐招提寺金堂保存修理事業専門委員会発足
2000年1月	金堂修理事業開始
9月	境内に仏像修理所建設
12月	金堂覆屋根完成、盧舎那仏・千手観音搬出開始
2001年4月	金堂解体調査着手
2002年3月	盧舎那仏・千手観音保存修理終了
2003年12月	金堂解体調査終了
2004年10月	金堂の組立を開始
2007年9月	金堂組立終了
2008年3月	金堂覆屋根解体
2009年4月	金堂三尊遷座
8月	金堂平成大修理落慶法会

展覧会の構成

1 金堂再現

唐招提寺金堂は、屋根と柱が織りなす美しさが印象的な奈良時代を代表する建築として知られています。堂内須弥壇の中央に盧舎那仏坐像、その向かって左に千手観音立像、右に薬師如来立像が安置され、盧舎那仏の前方左右に梵天・帝釈天立像、須弥壇の四隅に四天王立像が配されています。巨像と天井の高い巨大建築による堂内空間は、さながら盧舎那仏を中心とする壮大な宇宙を感じさせます。

本展示では、平成館の大展示室に、盧舎那仏坐像を中心として梵天・帝釈天立像と四天王立像を安置することによって、金堂の堂内空間を再現します。通常、金堂の外側からしか拝することのできない各尊像を、観覧者があたかも自ら堂内に足を踏み入れて、各尊像とより身近に対面できる場としたいと思います。各尊像のもつ魅力をライティングによって最大限に引き出し、観覧者が盧舎那仏の宇宙に身を置きながら、天平の造形空間を実感できることを意図しています。



金堂外観

c 千葉正夫

2 御影堂再現

御影堂は唐招提寺境内の北方奥に所在し、閑静なたたずまいを見せています。その中央奥室（松の間）に厨子が安置され、鑑真和上坐像が祀られています。各間は、昭和 56 年に東山魁夷によって完成された全 68 面に及ぶ障壁画で荘厳されています。

本展示では、鑑真和上坐像とともに厨子絵を含む障壁画全点によって御影堂内を再現します。鑑真像は、日本に正式の戒律を伝えるために 12 年にわたる様々な困難の末に来朝した鑑真のあるがままの姿を伝える肖像彫刻の名作として知られていますが、像から発せられる崇高な精神は、それを拝する者に強い感銘を与えてきました。東山魁夷もその一人であり、構想から 10 年の歳月をかけ、丹精を込めて完成された障壁画は魁夷芸術の集大成であると共に、現代に生きる鑑真への敬慕の象徴ともいえるものです。今回、鑑真像とともに障壁画を全点展示する意図は、両者が一堂に会することによって醸し出される神聖な雰囲気を観覧者に実感していただくことにあります。こうした展示の機会、おそらく今回が最初で最後になるといえましょう。



御影堂厨子内の鑑真和上坐像

c ヴィム・ヴェンダース

主な出品作品

1 盧舎那仏坐像(るしゃなぶつざぞう)

国宝 奈良時代・8世紀

脱活乾漆造、漆箔 高 304,5 cm

金堂の本尊で、像高は3メートルを超える巨像です。鑑真とともに来朝した弟子の義静の造立と伝えます。厳しさを秘めた表情、堂々とした体躯の表現に、確固たる存在を感じることができます。奈良時代に仏像技法として盛んに用いられた脱活乾漆造り（像の形に応じて心木を組み、土をかぶせて塑形した上に麻布を漆で貼り重ねて像を形作り、最後に中の土を取り出す）によっています。

盧舎那仏は戒律において重要な経典である『梵網経』の教主です。太陽神に由来し、全宇宙にいきわたる真実の仏とされています。



1 盧舎那仏坐像

2 鑑真和上坐像(がんじんわじょうざぞう)

国宝 奈良時代・8世紀

脱活乾漆造、彩色 高 80,1 cm

『唐大和上東征伝』によると、天平宝字7年(763)春、鑑真和上の弟子の忍基が、当寺講堂の梁が折れる夢を見て和上の遷化が近いことを悟り、諸弟子を率いてその姿を模したと記されており、本像はその時に造られた像に当ると考えられています。鼻筋の通った顔立ち、肩幅のある体躯、逞しさのある手など、和上のあるがままの姿を自然に捉えています。目を閉じ瞑想にふけるかのような穏やかな表情には、身命を惜しまず、日本への伝戒を成し遂げた和上の崇高な精神が宿っているといえます。本像には礼拝者の心を浄化する力があり、そこに肖像彫刻の名作としての所以があるように思われます。



2 鑑真和上坐像

3 梵天・帝釈天立像

(ぼんてん・たいしゃくてんりゅうぞう)

いずれも国宝 奈良時代・8世紀

木造彩色・乾漆併用

高 186,2 cm (梵天)、188,2 cm (帝釈天)

梵天・帝釈天はもともと古代インドの神話に登場する重要な神で、早くより仏教に取り入れられました。

両像は盧舎那仏の前方左右に安置されており、和上とともに来朝した弟子の如宝によって造立されたと伝えられます。像高は180センチを超え等身よりも大きく造られていますが、盧舎那仏の前では小さく見えます。像の大半を針葉樹の一材から彫出していますが、頭髮など一部に乾漆を用いています。その表情や量感のある体躯の表現など、造像技法は異なりますが、作風は盧舎那仏と通じます。



3 - 1 梵天



3 - 2 帝釈天

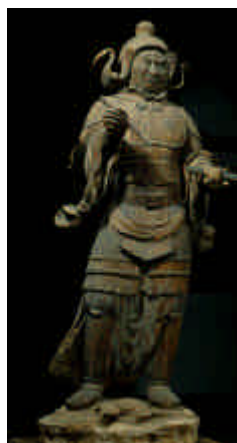
4 四天王立像(してんのうりゅうぞう)

国宝 奈良時代・8世紀 木造彩色・乾漆併用

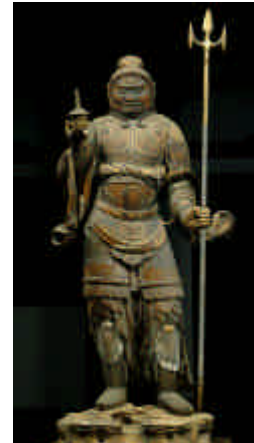
高 186,3 cm(広目天)、188,5 cm (多聞天)、187,2 cm (増長天)、185,0 cm (持国天)

金堂須弥壇の四隅に安置され、梵天・帝釈天像とともに、如法によって造立されたと伝えられます。また、像の大半を針葉樹の一材から彫出し、部分的に乾漆を用いる技法、やや晦渋味のある顔立ちや量感のある体躯表現など梵天・帝釈天に通じ、さらに像高もほぼ統一であることから、これらは一連の構想の下に造立されたと考えてよいと思われます。

金堂の諸尊に見られる、大ぶりで重厚感のある作風には大陸的な気分があり、和上や弟子たちを介して流入した中国の最新の仏像様式が反映されているとも考えられます。



4 - 1 広目天



4 - 2 多聞天

5 東山魁夷障壁画（ひがしやまかいししょうへきが）

国民的画家といわれた東山魁夷が、10年余りの歳月を費やし、鑑真和上に捧げるために描いた大作。日本の風土の象徴として、色鮮やかに描かれた「山雲」「濤声」と、和上の故郷中国の壮大な風景を墨一色で描いた「揚州薫風」をはじめとする水墨画が見事に对比しています。

寺外では、今回はじめて和上像とともに厨子絵を含むすべての障壁画が展覧されることで、和上の眼差しとともに東山魁夷畢生の大作をみることができるまたとない機会となります。



5 東山魁夷障壁画のうち「濤声」

唐招提寺伽藍の建築空間を体感する VR（バーチャルリアリティ）展示

展示会場内には、VR（バーチャルリアリティ）シアターを設置いたします。

これはTBSと凸版印刷が共同開発した次世代の映像展示システムです。VRシアターでは、コンピュータグラフィックスにより緻密に再現された建造物や文化資産を、大型スクリーンに投影して、まるでその場にいるかのような体験ができます。VRシアターで上映されるコンテンツは、現在は見ることができない金堂の内部を訪ね歩くだけでなく、平成大修理により解体で明らかになった金堂の建築構造に迫ります。金堂の他、講堂、東室礼堂、鼓楼、宝蔵、経蔵を通り抜け、鑑真和上坐像が安置されている御影堂の内部に至ります。

御影堂には日本画家、東山魁夷画伯が10年の歳月を費やして昭和56年に完成した68面の障壁画があります。鑑真和上が、苦難の来朝のため目が不自由になり見るができなかった色鮮やかな日本の山海の風景と、水墨による和上の故郷、中国の風景が描かれており、東山魁夷が和上に捧げたオマージュとして知られています。

御影堂は通常は一般公開されておらず、和上の命日である毎年6月6日の前後1週間、開山忌舎利会にのみ公開されています。御影堂内部のありのままの姿もVRシアターで観賞することができます。

もう一つの見どころは、古来の建築様式を引継ぎながら、鎌倉期、南北朝、元禄、明治期と修理を重ねてきた金堂の瓦や壁を取り払い、建築構造（骨組み）を視覚化し、また、天井の彩色の一部を色鮮やかに再現したシーンです。古代中国から伝来した建築構造や意匠を検証しながら、天平の優れた伽藍建築技術への理解を深めることができます。

今回はこれらのシーンを、横10メートル、高さ3メートルの大型スクリーンに複数の超高精細プロジェクター（ハイビジョンの2倍以上の画素数）で投影し、迫力ある映像をお楽しみいただけます。



著作 製作 TBS

著作 制作 凸版印刷株式会社

監修 鈴木嘉吉（唐招提寺金堂修復委員会 委員長）

協力 唐招提寺、奈良県教育委員会

デジタルデータ提供 凸版印刷株式会社、独立行政法人 情報処理推進機構
（先導的アーカイブ映像制作支援整備事業より）

特別番組

奈良市の唐招提寺で、2001年夏に始まった国宝金堂の解体作業が去年暮れに終了しました。その結果、これまで知るべくもなかった事実がいくつも浮かび上がりました。もともと二重に作られていた基壇、50センチほど低かった須弥壇（しゅみだん）、天井画に残る青の痕跡…。さまざまな“発見”が金堂の創建当初の姿を語り始めました。

そもそも金堂はいつ建立されたのか？どこにも例のない盧舎那仏、千手観音、薬師如来という三尊の組合せは当初からのものだったのか？金堂をめぐるさまざまな謎の解明に向けて、無数の小さなヒントが大きくなうねりになり始めています。

金堂の二重基壇や天井画の青、それに舍利壺（しゃりこ）などに漂う異国の香り。金堂を建立したのは、鑑真和上の弟子、安如宝というペルシア人でした。

クライマックスは、学者や専門家が総力をあげて取り組む創建当初の姿の復元です。金色の体に青い螺髪（らほつ）の仏像、真っ白な須弥壇、天井や柱の鮮やかな極彩色…。最新のコンピュータグラフィックス技術を駆使して、唐招提寺の境内に金堂が出現します。カメラはゆっくり中へ…。金堂内部には、どんな絢爛豪華な天平絵巻が待っているのでしょうか。

2005年1月9日（日）午後3:00～4:24

『金堂復元！唐招提寺 1200年目の真実』（JNN28局ネット）

出演：関口 宏

田丸美寿々

リポーター は な

ゲスト 鈴木 嘉吉（唐招提寺金堂保存修理専門委員会委員長）

主題歌

本展覧会では、谷村新二さんが作詞・作曲した『昴』の雄大で荘厳なイメージを、伝統的な和楽器を用いることにより、さらにスケールアップさせ、テーマとしました。

演奏は、日本の伝統楽器や音楽でユニークな活動を展開する男性3人によるグループ「ZAN（ザン）」。彼らは和音階と鑑真和上の故郷中国、天平の都に思いをはせる中国音階をミックスし『昴』を全く新しい邦楽バージョンに仕上げています。

2005年1月13日『昴』発売予定

お問い合わせ：rhythm zone 03-5413-8515 <http://www.avexnet.or.jp/zan>

関連事業

親と子のギャラリー「仏像のひみつ」平成館1階

第1部—仏像彫刻鑑賞のポイントを「4つのひみつ」にまとめて展示します。

- ・ ひみつの1「仏像たちにもソシキがある!」: 仏像の種類を紹介します。
- ・ ひみつの2「仏像にもやわらかいやつとカタイやつがいる!」: 仏像彫刻の素材は2つのグループに分かれます。塑像や乾漆像のように軟らかい素材を重ねて造るグループ。金銅仏もこちらの仲間です。もう1つは木彫や石仏のように、硬い素材を彫り込んで造るグループ。
- ・ ひみつの3「仏像もやせたり太ったりする!」: 仏像彫刻の形態や体型は時代によって変化します。仏像の時代鑑定のポイントです。
- ・ ひみつの4「仏像の中には何かがある!」: 仏像の中にはほんらい魂がはいっているのです。魂は品物だったり、文字だったり。

第2部—特別展に直接リンク。第1部で紹介した乾漆像の代表的な作品である盧舎那仏像を鑑賞するために、東京芸術大学の保存技術専攻の大学院生が造った、この像の製作工程模型を展示します。

フォトギャラリー

「唐招提寺 鑑真和上・盧舎那仏に捧げる 献華写真・俳句展」—平成館ラウンジ

女性写真家たちが鑑真和上に捧げる写真と、10代から90代の俳人が唐招提寺に捧げた句を展示します。

参加写真家

石内都、久留幸子、河瀬直美、伊藤美露、長島有里枝、野村佐紀子、在本彌生、MOTOKO、たけむら千夏、花代、シーラ・メッツナー、マリーエン・マーク、吉田ルイ子、織作峰子、ARIKO

俳人

森下千鶴恵、山下大輝、小田涼子、高柳克弘、五島高資、高山れおな、小澤賽、田中裕明、正木ゆう子、高野ムツオ、宇多喜代子、山本洋子、川崎展宏、大峯あきら、森澄雄、津田清子、桂信子、林翔

記念講演会（平成館大講堂）

・1月16日（日）13:30～15:00

「唐招提寺の仏たち」 東京国立博物館図書・映像サービス室長 岩佐光晴

* 申込締切 1月4日（火）

・2月26日（土）13:30～15:00

「鑑真和上が伝えたかったこと」 奈良国立博物館学芸課資料室長 西山 厚

* 申込締切 2月8日（火）

・3月6日（日）13:30～14:30

「金堂解体修理の現状」 奈良県文化財保存事務所主査 田中 泉

* 申込締切 2月22日（火）

事前申込制（定員 380 名）応募多数の場合抽選。

聴講無料（特別展の観覧券が必要）

申込方法：往復ハガキ往信用裏面に住所・氏名（ふりがな）・電話番号・希望日を、返信用表面にも住所・氏名を明記の上、下記にお申込ください。1枚の往復ハガキで1名のみ申込可能。

〒107-0062 東京都港区南青山 2-24-15 青山タワービル 11 階「唐招提寺展」講演会係

イベント（平成館大講堂）

石田録事がご案内するバーチャルでめぐる唐招提寺散策」

・1月26日（水）11時（受付10時30分）～12時・14時（受付13時30分）～15時

・2月16日（水）11時（受付10時30分）～12時・14時（受付13時30分）～15時

* 聴講無料（先着順 当日特別展の観覧者に限ります）

唐招提寺展 国宝鑑真和上像と盧舎那仏」掲載・写真貸出依頼書

株式会社コスモ・コミュニケーションズ AP - 1部御中 FAX.03-3405-9730

1：貴社基本情報

会社名			
担当部署		担当者	
住 所	〒 -		
TEL		FAX	
E-mail			

2：媒体情報

新聞/雑誌	媒体名			
	発行日	年 月 日	発売日	年 月 日
テレビ ラジオ	番組名			
	放送日	年 月 日	時間	: ~ :
Web	媒体名			
	掲出期間	年 月 日 ~ 年 月 日		

3：写真貸出申請

	作品名	紙焼き	データ
1	盧舎那仏坐像（国宝） ◎ 久留幸子	枚	枚
2	鑑真和上坐像（国宝） ◎ 久留幸子	枚	枚
3-1	梵天立像（国宝） ◎ 金井杜道	枚	枚
3-2	帝釈天王立像（国宝） ◎ 金井杜道	枚	枚
4-1	四天王立像/広目天（国宝） ◎ 金井杜道	枚	枚
4-2	四天王立像/多聞天（国宝） ◎ 金井杜道	枚	枚
5	東山魁夷障壁画（涛声） ◎ 大西成明	枚	枚

< 展覧会をご紹介頂く場合 >

本展覧会をご紹介頂く場合、記事・番組内容について、情報確認のためゲラ刷り原稿の段階で広報事務局まで FAX にてお送り下さい。写真付きでご紹介頂ける場合は、FAX 用紙に必要事項を記入の上、お申込下さい。写真掲載の際は、キャプションとクレジットが必要になります。上記の表に表記してあるクレジットを必ず入れて下さい。